

■道路ふれあい月間について 【道路部】

● 「道路ふれあい月間」について

毎年8月1日から31日までを「道路ふれあい月間」として、道路を利用している国民の方々に改めて道路とふれあい、道路の役割及び重要性を再認識していただき、さらには道路をいつくしむという道路愛護活動の推進及び道路の正しい利用の啓発を図るとともに、道路を常に広く、美しく、安全に利用する気運を高めることを目的としています。

● 「道の日」について

道路は、国民経済を支え、国民生活を維持するために欠くことのできない基本的な社会資本施設ですが、あまりにも身近な存在であるため、その重要性が見過ごされがちです。そこで、道路の意義・重要性について、国民の皆様に関心をもっていただくことを目的として、昭和61年に8月10日を「道の日」に選定しました。

8月10日を選定した理由は、大正9年8月10日に、我が国で最初の道路整備についての長期計画である第1次道路改良計画が実施されたことと、8月1日～31日が「道路ふれあい月間」の期間中であったこと、などによります。

■「平成24年度 四国地方整備局管内技術・業務研究発表会」について（報告） 【企画部 企画課】

7月18日、19日の2日間、「平成24年度 四国地方整備局管内技術・業務研究発表会」を高松サンポート合同庁舎で開催しました。

発表会では、徳島県、高知県、西条市、(独)水資源機構、西日本高速道路(株)からの参加も含め、イノベーション部門、アカウンタビリティ部門、一般部門（安全・安心に暮らせる四国づくり、交流・連携による活力ある四国づくり、人と自然にやさしい四国づくり、業務改善等への取組）の3部門59題の発表があり、2日間で約500名の聴講者がありました。

開会にあたり、川崎四国地方整備局長から「四国地方整備局では人材育成基本方針等を策定し、より一層の人材育成に取り組んでいる。この技術・業務研究発表会も、個人のスキルアップを図ると同時に、組織全体の技術力の向上により、さらなる人材育成に役立つことを期待する。」との挨拶がありました。

また、研究発表終了後の2日目午後には、愛媛大学 教育企画室 副室長 秦 敬治 教授による、人材育成講演・ワークショップ「スタッフ・ポートフォリオ入門～職員と組織が共に輝くために～」を行いました。

この中でははじめに、秦教授よりスタッフ・ポートフォリオの意義について、「職員自らがキャリア形成を図れ、組織としては職員一人ひとりの可能性や潜在能力を知ることができるツールである」との説明のほか、その有益性、活用例や導入例等についての解説がありました。

その後、2人1組となり、「なぜ?なぜ?ワーク」で自分自身を深く掘り下げ、日頃の具体的取り組みを付箋に書き出してそれらをグループ分けすることにより自分自身の理念・ビジョンを明確にし、将来になりたい自分を考える、スタッフ・ポートフォリオ作成体験（ワークショップ）を行いました。

そして、論文審査委員長である石橋企画部長からの講評の後、59論文の中から論文・発表の内容や構成等により優秀論文に選ばれた18論文の発表者に対して、白石次長より表彰状が授与され、白石次長より「社会資本整備を巡る課題は益々その厳しさを増しているが、我々にはそれにきちんと応えることが求められている。この発表会での経験をよりよい社会資本整備に活かしていただきたい。」との閉会挨拶があり、2日間の研究発表会を締めくくりました。

(参考URL:<http://www.skr.mlit.go.jp/kikaku/kenkyu/index.html>)

■ 九州北部豪雨における四国地方整備局TEC-FORCEの活動について 【企画部】

国土交通省四国地方整備局では、九州地方における7月12日からの梅雨前線の活発な活動による豪雨(平成24年7月九州北部豪雨)による被災箇所の迅速な災害復旧を支援するため7月14日に支援対策本部を設置し、7月20日までの間、緊急災害対策派遣隊(T E C - F O R C E)として職員15名を現地に派遣し、被災地域への支援を行いました。

主な活動として、九州地方整備局災害対策本部に総合司令部班を派遣し、現地T E C - F O R C Eとの活動計画や必要資料・資材に関する調整、現地の作業状況の全体把握、各地方整備局との調整を行いました。砂防班は、阿蘇市大観峰、南阿蘇村三久保の道路法面崩壊、土砂災害箇所の調査を実施しました。河川班は、一級河川矢部川水系矢部川の堤防決壊箇所の調査を実施しました。機械班排水ポンプ車は、阿蘇市一の宮において湛水地区の排水作業、自衛隊・熊本県警・広域消防の行方不明者捜索を支援する排水作業を実施しました。同班照明車は夜間復旧作業を行っている大分県日田市花月川の護岸災害現場を支援しました。災害記録班は各班の現地活動の記録業務に従事しました。

今回のT E C - F O R C E活動にあたり、九州地方整備局の支援のおかげで無事任務を遂行することが出来ました。この場を借りてお礼申し上げます。

■ 四国防災アーカイブスについて 【企画部】

社団法人四国建設弘済会は、四国で過去に発生した地震・津波の情報をデータベース化した「四国災害アーカイブス」を7月20日からインターネット上で公開しました。(http://www.shikoku-saigai.com/)

データベースでは地震や津波について、災害年月日、市町村名、災害の様子・被害の状況・人々の対応などの概要、地図情報、災害にまつわる石碑・痕跡・史跡等の関連する写真等を掲載しています。

今後は地震・津波だけでなく、風水害、土砂災害、高潮、濁水、雪害、火山災害、火災などの災害別に情報を集約し、平成26年の完成を目指します。

アーカイブスは、四国建設弘済会が調べた学術資料や、四国内の自治体に協力を仰いで集めた郷土史や古文書など、1,072点の情報を集約したものです。平成21年から調査を始め、国、四国4県や大学の研究機関など12団体でつくる検討委員会が監修しました。自治体の防災対策や、地域での防災教育の資料として活用が期待されます。